

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 12 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370400

研究課題名(和文)『六十種曲』を中心とする中国古典戯曲の研究

研究課題名(英文) Study of the Chinese classic drama mainly on 60 kinds of drama

研究代表者

土屋 育子 (TSUCHIYA, Ikuko)

東北大学・文学研究科・准教授

研究者番号：30437800

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、明末に編纂された戯曲集『六十種曲』に収録される作品を対象とする。作品ごとに、現存する異本を可能な限り蒐集し、それらを詳細に比較検討することにより、『六十種曲』編纂の過程を明らかにすることを目的とした。検討するにあたり、異本の残存状況によって、60種の作品を複数のグループに分けた。複数の異本を持つ作品の比較を行った結果、特徴的な異同状況を示す作品について、論文にまとめ公表した。

研究成果の概要(英文)：This study intends for works included in anthology of dramas "60 kinds of drama" edited in the end of Ming dynasty. And it was intended to clarify a process of "60 kinds of drama" editing. I performed collection of variant texts which existed as much as possible. I adopted a method to weigh these variant texts every work in detail at the same time. I could perform collection of many variant texts, and divided them into the group by the existence situation of many texts. I compared these texts every group and, about dramas indicating the characteristic situation, was able to summarize them and publish on journals.

研究分野：中国文学

キーワード：六十種曲 中国戯曲 通俗文学

### 1. 研究開始当初の背景

中国古典演劇の研究では、田仲一成博士の一連の研究(『中国祭祀演劇研究』東京大学出版会1981等)において、作品分析を中心とする手法ではなく、テキスト間の異同を比較することにより、戯曲作品の系統分化の過程を明らかにするという新しい成果が示された。中国の古典戯曲は、中国通俗白話小説などと同じく、出版のたびに改編が施され、結果としてさまざまな版本が生みだされている。そのため、複数の版本を総体的にとらえる視点が不可欠であり、田仲博士の研究はこうした意味で画期的であった。

その後、中国通俗文学の分野では、版本の異同を比較する、テキスト・クリティークの方法を取り入れた、実証的な研究が盛んに行われるようになってきている。しかしながら戯曲研究においては、中国文学史に取り上げられるような著名な作品が中心となっており、今後さらに研究を進めていく余地がまだまだ多く残されている。

先行研究を踏まえ、申請者はこれまでテキスト・クリティークの方法を取り入れて研究を進めてきた。「元雑劇テキストの明代以降における継承について」(『日本中国学会報』56、2004)では、「元刊雑劇」が明代以降テキストを経て現代の京劇の中に継承されていることを、詳細な校勘作業をもとに明らかにした。「戯曲テキストの読み物化に関する一考察 汲古閣本『白兔記』を中心として」(『日本中国学会報』58、2006)では、演劇脚本が体裁・内容が洗練され、読曲用脚本として編纂される過程について論じた。これらの研究を通して、明末に刊行された戯曲集『六十種曲』が、中国演劇史において重要な位置を占めていることを認識するに至った。

### 2. 研究の目的

『六十種曲』は、その名の通り60種類の作品を集めた戯曲集であり、名作として名高い『琵琶記』『西廂記』『還魂記』などを収録し、中国演劇史において重要な位置を占めている。『六十種曲』所収本を用いた先行研究は、個別の作品について行われている。

しかしながら、『六十種曲』を総体的に扱った研究は、これまでほとんど行われていない。そこで、本研究では『六十種曲』を中心に据え、収録作品とその異本との精密な校勘作業・語彙調査を通して、その成立・編纂意図をある程度明らかにすることを目的とする。

具体的には、次の3点について行う。第一に、調査研究に必要なテキストを可能な限り多く収集し、書誌の情報を整理することである。第二に、テキストの詳細な校勘作業と語彙調査を行い、継承関係・系統分類を明らかにする。完本のみならず、一幕ものの脚本や簡略本も調査対象とする。なお、散齎集に収録されるテキストについては、申請者がこれまで行ってきた研究成果を利用する。第三に、

作者・作品をめぐる問題についても可能な限り明らかにすることである。これは、作品の性格や流伝を考える上で重要な要素となっている場合があるからである。

### 3. 研究の方法

研究に先立ち、『六十種曲』に収録される60種の作品を異本の現存状況によって分類を行った。ここで言う異本とは、『六十種曲』を刊行した汲古閣以外の出版者(以下「書坊」と記す)が刊行したテキストである。『六十種曲』に収録されるテキスト(以下「汲古閣本」と記す)と異本とを比較すれば、『六十種曲』が先行する異本のどれに基づき、どのように編纂したのかを明らかにしうるであろう。よって、分類を参考に比較対象を絞り込み、調査を効率的に進める手だてとする。

まず60種のうち、異本が現存しない、つまり『六十種曲』にのみ収録される作品は16種である。これらは異本との対照が出来ないので、比較対象から外した。

次に、残り44種のうち、1種のみ異本を持つものが12種であった。これらは比較対象とする。

2つ以上の異本を持つ作品は32種であった。ただし、湯顯祖作の5作品は、異本が他の作品と傾向を異にしているため、本研究課題における調査対象からは外すことにした。また、申請者がこれまで行ってきた研究で扱ったことのある作品や先行研究で詳しく取り上げられている作品については、先行する研究を参考にしながら、考察範囲に含めることとした。

2つ以上の異本をもつ作品のうち、異本を刊行した書坊によって『六十種曲』収録作品のグループ分けをし、グループごとに比較検討を行うこととした。例えば、A書坊刊行の異本とB書坊刊行の異本を持つ作品はグループ、B書坊刊行の異本とC書坊刊行の異本を持つ作品はグループ、というような分類である。同時に、異本が一種類しか現存していないものについても、校勘作業を進める。

以上のように、分類したグループで比較結果を検討すれば、『六十種曲』編纂時にどの書坊の刊本を積極的に利用していたのか、ある程度傾向が明らかにすることを意図した。

### 4. 研究成果

『六十種曲』に収録される作品の異本の現存状況を見ると、特定の書坊が複数の作品を刊行していることがわかる。代表的な書坊としては、富春堂、世徳堂、継志齋、文林閣、容与堂などが挙げられる。そこで、上記の書坊刊行の異本が現存する作品を対象として、重点的に調査を行った。以下、論文の梗概を示す。

異本が1種のみ現存するケースとして、『精忠記』を取り上げた。論文「岳飛をめぐる戯曲作品について 『東窓記』から『精忠記』への改編を中心に」では、汲古閣

本『精忠記』と、異本である富春堂刊行の『東窓記』とを比較した。六十種曲所収の『精忠記』はかなりの部分を『東窓記』に拠っているが、独自の改編を行っている。汲古閣本『精忠記』は、富春堂本『東窓記』と比べて、史実により忠実であるとする姿勢がうかがえる。しかし、すでに人口に膾炙して有名な話柄については、史実に反した内容であっても積極的に取り入れている。

汲古閣本『精忠記』は、富春堂本『東窓記』に見られるような岳飛らに対する同情心や、謀殺したことに対する反省を示す部分を取り去ったり、史書にもとづいて物語を整理したりするなどして、史書に見える秦檜の悪のイメージを補強する部分もある。秦檜はじめ敵役の登場人物の悪を、より際立たせる方向に改編を行っている。これには、岳飛対秦檜、主戦対和議といった対立関係を、より明瞭に浮かび上がらせようとする意図も働いているものと考えられる。このような悪の描き方は、汲古閣本『精忠記』は金国に関する言説に強硬な姿勢を示そうとする傾向があるという、笠井直美氏の所論とも矛盾しない。

また、両テキストを比較してみると、汲古閣本『精忠記』がさらに踏み込んで独自に改編したと推測される箇所もあり、単に史書の記述に引きずられたものではないと言える。秦檜は憎々しい悪役でなければならなかったのである。そして、逆に富春堂本『東窓記』における悪役は、道化的な要素を残しつつどこか人間味のある人物として形象されている点は注目されよう。

以上のように、異本が1種のみ現存する作品の場合、汲古閣本がその異本のみに基づいたということを断定的に言うことはできないが、富春堂本と比較することにより汲古閣本の改編意図を明らかにしえたと言える。

次に、複数の異本が現存するケースとして、汲古閣本『千金記』を取り上げた。論文『『千金記』版本考』でそれである。汲古閣本『千金記』の異本として、富春堂本、世徳堂本、仇英本（継志齋本）の3種が現存する。

『千金記』の現存する異本の中では、富春堂本がもっとも古い本文を残していると言える。世徳堂本本文には改編の手がかなり加えられており、諸本および汲古閣本との異同は多いが、校勘可能な範囲に留まっていることから、富春堂本などと祖本を同じくするテキストと考えられる。結果、世徳堂本は、汲古閣本成立との直接的な関係は薄い。世徳堂本文を継承するのは『群音類選』以外に現時点で見つからない。仇英本は、富春堂祖本に基づき、改編を経て成立したテキストであると言える。仇英本の編纂者は、富春堂本を元に折や曲の入れ替えを行い、当時行われていた演目（「登壇拝将」「十面埋伏」）や曲辞も取り込んでいる。世徳堂本を一部参照した可能性もある。以上のように、汲古閣本本文に基づいたのは、世徳堂本ではなく富春堂本系の祖本であることがわかった。

参考ながら、現在、汲古閣本『八義記』の調査を進めている。『八義記』の異本には、富春堂本と世徳堂本が現存するほか、簡略本で富春堂本・世徳堂本両者より刊行年代が早い『風月錦囊』所収本がある。『八義記』諸本との比較の結果、次のような状況がある。富春堂本と世徳堂本の異同は少ない。汲古閣本は、富春堂本と世徳堂本と異同が大きい傾向がある。『風月錦囊』所収本本文は基本的に富春堂本・世徳堂本に近いが、文字単位では汲古閣本に一致する箇所が幾つか見られる。

これ以外にも複数の作品で比較を行ったが、個別の作品の調査結果のみでは論文として発表できないものが多い。研究期間終了後も引き続き調査を行い、調査結果をまとめ、論文の公表を目指す予定である。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計9件)

土屋育子、梅蘭芳『舞台生活四十年』訳注（九）査読無、『文化』（東北大学文学会）第80巻第3・4号、2017年、印刷中

中尾友香梨・白石良夫・三ッ松誠・土屋育子・亀井森・日高愛子・大久保順子・村上義明・二宮愛理・河野未弥、小城鍋島文庫蔵『十帖源氏』翻刻稿（四）梅枝巻～竹河巻、査読無、『佐賀大学地歴センター研究紀要』12号、2017年、査読無、印刷中

中尾友香梨・白石良夫・日高愛子・三ッ松誠・亀井森・沼尻利通・大久保順子・土屋育子・脇山真衣・二宮愛理・明石麻里・村上義明、小城鍋島文庫蔵『十帖源氏』翻刻稿（二）賢木巻～少女巻、『佐賀大学文化教育学部研究論文集』、第20集第2号、184(1)-150(35)、2016年、査読無

土屋育子、梅蘭芳『舞台生活四十年』訳注（八）『東北大学中国語学文学論集』、第20号、69-84、2015年、査読無

土屋育子、『千金記』版本考、『集刊東洋学』（中国文史哲研究会）113号、21-41、2015年、査読有

中尾友香梨・白石良夫・日高愛子・三ッ松誠・沼尻利通・大久保順子・土屋育子・明石麻里・村上義明「小城鍋島文庫蔵『十帖源氏』翻刻稿（一）桐壺巻～葵巻」、『佐賀大学文化教育学部研究論文集』、第20集第1号、232(1)-192(41)頁、2015年、査読無

土屋育子、梅蘭芳『舞台生活四十年』訳注（七）『文化』（東北大学文学会）第78巻第3・4号、193(122)-174(141)、2015年、査

読無

( )

土屋育子、梅蘭芳『舞台生活四十年』訳注  
(六)『文化』(東北大学文学会) 第 77 卷  
第 3・4 号、193(122)-174(141)、2014 年、査  
読無

土屋育子、岳飛をめぐる戯曲作品について  
『東窓記』から『精忠記』への改編を中  
心に、『集刊東洋学』(中国文史哲研究会)  
110 号、41-60、2014 年、査読有

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

土屋 育子 (TSUCHIYA, IKUKO)  
東北大学・大学院文学研究科・准教授  
研究者番号：30437800

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

### (4) 研究協力者